「希望」の概念化
—認知メタファー理論の視点から—

鍋　島　弘治朗

1．序論

本稿では，メタファーの視点から，「希望」にまつわる概念がどのように構成されているかを検討する。この問題を考えるに当たって生じる疑問は，①希望を表す表現はどこから来るのか，②「希望」と「望み」の差は何か，③日英で希望の概念化に差はみられるのか，の3点である。以下にこの3点を詳しく述べる。

1.1　希望を表す表現はどこから来るのか

（1）は，「希望」を表すさまざまなメタファー的表現を示している。

（1）　a．希望をつなぐ
　　b．希望を捨てる
　　c．希望が生まれる
　　d．希望が芽生える
　　e．希望が膨らむ
　　f．希望が湧いてくる
　　g．希望の光が差す

一体，「希望」は，どのように概念化されているのか。

1.2　「希望」と「望み」の差

また，辞書の記述に見られるように「希望」と「望み」は，非常に近い概念のように思われる。

きぼう（…バウ）【希望・冀望】

1　（―する）こいねがうこと。あることが実現することを待ち望むこと。また，その気持。のぞみ。願望。「希望を述べる」

2　将来への明るい見通し。のぞみ。可能性。見込み。

のぞみ【望】

（1　遠くを見やること。ながめ。眺望。）

2　そうしたい。そうありたいと願うことがら。希望。ねがい。「望みがかなう」

3　将来よくなりそうな見込み。将来の発展が期待されるようなみどころ。[1]

しかしながら，両者のメタファーには（2）に示すように多くの相違点が存在する。

（2）　a．希望が芽生える
　　b．?? 望みが芽生える

（3）　a．希望が膨らむ
　　b．?? 望みが膨らむ

（4）　a．希望にあふれる
　　b．?? 望みにあふれる

1.3　「希望」と *hope* の差異

さらに，「希望」と，これに対応する英語の *hope* には，使用されるメタ

ファーが異なるのか，という興味深い疑問も生じる。

1.4　本稿の構成

本稿は，Lakoff and Johnson（1980）以来，盛んになっているメタファー理論（Lakoff and Turner 1989, Lakoff 1993, Grady et al. 1996, Grady 1997, 1999, Lakoff and Johnson 1999）に基づいて，日本語と英語の「希望」を表すメタファー表現を取り上げ，①どのようなメタファーが存在するのか，②類義語である「望み」との相違はなにか，③日本語と英語において「希望」の概念化に相違が存在するのか，の3点に焦点を当てて論じる。

本稿の構成は以下のようである。まず，序論である第1節に続いて，第2節で認知言語学におけるメタファー理論を概説する。次に，第3節および第4節で，①の疑問を取り扱う。すなわち，第3節では「希望」のメタファーをデータから分類する。第4節では，第3節で見たデータを中心に日本語の「希望」メタファーに関する分析を進める。

第5節では，②の疑問点，「希望」と「望み」におけるメタファーの相違から両者の意味的な違いを検討する。第6節および第7節では，③の疑問点を取り扱う。すなわち，第6節では，希望に対応すると思われる *hope* の用例を検討する。第7節では，日本語と英語における「希望」の概念化の相違を論じるものとする。第8節ではまとめとして本稿の結論，および残された課題，今後の展望を述べる。

1.5　データ

本稿のデータは，主にインターネットを利用して収集した。日本語は主にサーチエンジンのGOO，英語はおもにBritish National Corpus（BNC: http://www.hcu.ox.ac.uk/BNC/）を利用している。

2　認知言語学メタファー理論

本節では，認知言語学におけるメタファー理論の基礎をまとめる。

2.1　メタファーの定義

認知言語学の枠組みのメタファー研究では，メタファーに関して過去に以下のように述べられている。

–Metaphors are mappings across conceptual domains. (Lakoff, 1993: p.42)

–Metaphors are mappings from one conceptual domain to another.
(Lakoff and Turner, 1989: p.112)

–...conceputual metaphors are mappings across conceptual domains that structure our reasoning, our experience, and other everyday language.
(Lakoff and Johnson, 1999: p.47)

いずれも *mapping* という用語が使用されている。*mapping* とは写像あるいは関数で，以下のように日本語に訳すことができる。

・メタファーの定義：メタファーとは領域間の写像である。

2.2　多義，写像，領域，領域の非対称性，推論

この紹介は認知言語学のメタファー理論に少しでも親しみのある方にとっては無駄になろうが，初めて目にされる方もいらっしゃることと思うので述べておく。ここでは，Theories Are Buildings[2]（理論は建物である）というメタファーを例に取り上げる。

（6）に上げるような言語表現を見ると理論に関して建物の用語が繰り返し使われていることがわかる。

（6）　a．Is that the *foundation* for your theory?

b．The theory needs more *support*.

c．The argument is *shaky*.

d．We need some more facts or the argument will *fall apart*.

e．The argument *collapsed*.

f．So far we have put together only the *framework* of the theory.

Foundation（基礎），*support*（支え），*shaky*（揺れる），*fall apart*（崩れる），*collapse*（崩壊する），*framework*（枠組み）などの建物の表現を理論に使用する例は日本語でも見ることができる。なお，日本語では，メタファーの表記として理論は建物であると太字が使用されることが多い（以下の例文は山梨，1988: p.56 より）。

（7）　a．X理論の土台はがたがただ

b．例の理論の基本的な枠がまだ完成していない

c．その理論は骨組みからたて直さなければならない

d．Y理論は三つの支柱からなっている

上記の定義に照らして見ると，「領域」とは，この場合，「理論」領域と「建物」領域ということになる。この場合，「写像」とは，二つの領域間に語彙などの対応関係があることである。特に注意を喚起しておきたいのは，語彙の対応自体がメタファーなのではなく，対応関係にあるのは，領域であることである。

理論	←	建物
理論の基礎となる部分，前提的考え方	←	土台
理論の概要	←	骨組み
理論の説得力が失われる	←	崩れる

このことは，写像が語彙だけでなく，後に述べる「推論」にも及んでい

ることからわかる。メタファー理論における推論（inference ／ entailment）は，ある領域に関する知識である。人は建物に関して幅広い知識を有している。例えば，（4）のようなものである。

（8） a．土台がしっかりしていなければ，高い建物は建てられない。
b．土台が崩れれば、全体が崩れるが，上層が壊れても必ずしも土台が崩れるとは限らない。
c．建物が揺れることは建物が崩れる危険性があることである。
d．堅牢な建物は壊れにくい。

語彙のみならず，こういった知識も理論を建物として語った場合に保持される。また，2つの領域間には非対称性が見られる。すなわち，「建物」の用語が「理論」の用語として用いられ，「建物」に関して我々が持つ推論が「理論」の思考に用いられているわけである。この場合の「建物」領域は「Source Domain（起点領域）」，「理論」領域は「Target Domain（目標領域）」と呼ばれている。今後，モト領域／サキ領域という用語も使用する。

ここまでを，Theories Are Buildings の例を用いて確認すると以下のようになる。

・メタファーの表記：Theories Are Buildings（理論は建物である）
・領域：この例における「理論」領域および「建物」領域
・起点領域／モト領域：喩えに使われる具体的領域。この例における「建物」領域
・目標領域／サキ領域：喩えられる抽象的領域。この例における「理論」領域
・写像：語彙や推論などの構造的対応関係

2.3　メタファーの動機づけ

これに加えて，メタファーの重要な概念として，経験的基盤（動機づけ）

がある。メタファーの経験的基盤の重要性に関して，Lakoff and Johnson (1980) には，(9) のように記されている。

(9)　We feel that no metaphor can ever be comprehended or even adequately represented independently of its experiential basis...

(Lakoff and Johnson 1980: p.19)

ちなみに経験的動機づけとは，例えば以下のようなものであり，モト領域とサキ領域が共起する状態を実際に体験することと，概して言えば共起的体験と言える。

—本の数が多ければ高く積みあがる（→ More Is Up）
—意識のある時は立って行動している（→ Conscious Is Up）
—視覚情報から物事を理解する（→ Knowing Is Seeing）
—目的を達成するためにどこかへ行かなくてはならない
（→ Achieving A Purpose Is Reaching A Destination）

そこでメタファーの経験的基盤（動機づけ）に関して以下のように述べることができる。

・メタファーの動機づけ：メタファーの動機づけとは，モト領域とサキ領域との共起経験である。

なお，認知メタファー理論のモト領域，サキ領域，動機づけは，それぞれ，旧来のメタファー研究における，媒体（Vehicle），主意（Tenor），根拠（Ground）に呼応する。認知メタファー理論は，対応関係を表現レベルでなく領域レベルとした点，および根拠を共起的経験基盤に限定した点が特徴と言える。

2.4　2節のまとめ

本節では，認知言語学のメタファー理論の概説を，おもに Lakoff and Johnson（1980）から概観した。2.1では，メタファーの定義を，2.2では，モト領域，サキ領域，推論，写像などの諸概念を，2.3では，動機づけの考え方を確認した。さて，本節のメタファー理論を踏まえて，次節では「希望」のメタファーについて考察を始めたい。

3. 希望のメタファー的概念化の多様性

本節では，希望という漠然とした概念が，どのようなモト領域から構成されているか，用例を挙げて検討する。3.1では線としての概念化，3.2では所有物としての概念化，3.3では生物としての概念化，3.4では膨らむものとしての概念化，3.5では水としての概念化，3.6では上としての概念化，3.7では光としての概念化，3.8でその他を取り扱い，3.9で，これらの分析とまとめを行う。なお，用例は，辞書，内省による作例，インターネットを参考にした作例，インターネットからの実際例などである。

内容に入る前に，希望に関する辞書記述を確認する。第1節で見た通り，希望に関しては2つの意味があることが記載されている。

きぼう【希望・冀望】

1　（—する）こいねがうこと。あることが実現することを待ち望むこと。また，その気持。のぞみ。願望。「希望を述べる」

2　将来への明るい見通し。のぞみ。可能性。見込み。「希望に胸をふくらませる」「希望を失う」[3]

上記1の希望は，何か特定の内容があって，それが実現することを待ち望むことである。一方，上記2は将来に対する一般的な期待感である。両

者は特定の事象を前提としているかどうかに関して異なると思われる。そこで，これらを表現であらわすと，(10a)(10b) に対応すると思われる。

(10)　a．大学院へ行くという希望
　　b．明日への希望

(10a) と (10b) の希望は異なるものなのか。さまざまな表現との共起の文脈の中で両表現の容認可能性を検討する。

(11)　a．大学院へ行くという希望をかなえる
　　b．大学院へ行くという希望通り
　　c．大学院へ行くというご希望は理解しました
　　d．大学院へ行くという希望に満ちて
　　e．大学院へ行くという希望が膨らむ
　　f．? 大学院へ行くという希望を胸に羽ばたく
　　g．? 大学院へ行くという希望の光が差す

(12)　a．?? 明日への希望をかなえる
　　b．?? 明日への希望通り
　　c．?? 明日へのご希望は理解しました
　　d．明日への希望に満ちて
　　e．明日への希望が膨らむ
　　f．明日への希望を胸に羽ばたく
　　g．明日への希望の光が差す

(11) では，(11f)，(11g) にやや違和感があり，(12) では，(12a)，(12b)，(12c) などがあまり意味をなさないと考えられるが，「希望に満ちる」，「希望に膨らむ」などの表現ではどちらとも共起可能である。また，(11f)，(11g) もそれほど悪い表現と思われない。(11)，(12) のデータを

踏まえ，(10a) と (10b) はメタファー的観点から見ると大きな振舞いの相違はないと判断し，本稿の中では同列に扱う。

3.1 線としての希望

(13) に見られるように，「沿う」，「つなぐ」など，希望は線状のものとして概念化されることがある。

希望は線である

(13) a．希望に沿う

b．希望をつなぐ

c．希望が断ち切れる

d．希望を絶つ

e．希望通り

3.2 所有物としての希望

希望はまた，「持つ」，「失う」，「捨てる」など所有物として概念化されやすい。

希望は所有物である

(14) a．希望を持つ

b．希望をなくす

c．希望を失う

d．この門をくぐる者，すべての希望を捨てよ

http://www5b.biglobe.ne.jp/~nihi/way%20to%20eden.ht

e．希望を心に抱く

f．希望を与える

g．希望を託す

3.3　生物としての希望

「生む」,「芽生える」,「育む」など，希望は生き物として捉えられる場合がある。

希望は生き物である

(15)　a．希望を生む

b．希望を生み出す

c．希望が芽生える

d．希望が芽吹く

e．夢と希望を育む教育活動

http://kidsnet.jeims.co.jp/ishikawa/komatsu-k/page8/rendai-e

3.4　膨らむものとしての希望

「膨らむ」,「満ちる」,「胸一杯」など，膨らむものとしての希望もある。

希望は膨らむものである

(16)　a．希望が膨らむ

b．希望に胸を膨らませる

c．希望に満ちる

d．希望にあふれる

e．希望を込める

3.5　液体としての希望

「あふれる」,「満ちる」,「湧く」など，液体や水としての概念化もある。

希望は水である

(17)　a．希望に満ちる

b．希望にあふれる

c．希望が湧いてくる

3.6　上にあるものとしての希望

希望が空間的に上にあるものとして捉えられるような表現もしばしば見られる。

希望は上である

(18)　a．希望を胸に羽ばたこう！平成 12 年度卒業式～卒業しても敦工生の誇りを忘れずに

http://www.hokuriku.ne.jp/tsurukou/3gakki/sotugyo.htm

b．両手には飛び立つ希望を

http://ikebukuro.cool.ne.jp/yasaka1/link.html

c．昇華，舞いあがる希望

http://kobe.cool.ne.jp/macrow/ss/shouka.html

3.7　光としての希望

「希望の光」，「明るい希望」，「一筋の希望」など，光としての概念化は多い。

希望は光である

(19)　a．希望の光が差す

b．明るい希望

c．希望の光をともす人工角膜

http://www.hotwired.co.jp/news/news/3469.html

d．そんな時，暗闇に一筋の光明，希望を回復させてくれるもの。

http://www.cosmos.ne.jp/~nkameya/kibou.html

e．このチェックは，あなたが人を励ましたり，人の心に希望の灯りをともせる人かどうかの度合い，また逆境に耐える力，生命

の免疫力の有無を推測するものです。

http://www.usio.co.jp/magagine/pump0011/kibou_3.html

これに関連して，(20) の「希望の扉」,「開ける」という表現も，視界の拡がりを示しているように思われる。さらに，(21) では等位接続で「光」と「希望」がつながれている。等位接続は，形式的・意味的に類似したものを接続するのがその機能であるから，両者の関係を示す一つの傍証となる。

(20)　a．1999/ 5 /30 on air 希望の扉を開きたい～バングラデシュ・ダッカ～

http://www.nhk.or.jp/asia/old02/japanese/programs/9905/990530

b．希望が開ける

(21)　SHINE ～光と希望に包まれて～高機能自閉症の息子の不思議な世界を紹介　http://www.h3.dion.ne.jp/~shine1

3.8　その他の希望のメタファー

その他の表現としては次のようなものが存在する。

(22)　a．君は僕達の希望の星だ

b．希望の鐘が鳴る朝に／ Beginning of the Time

http://www.alfee.com/databox/disco/single/kibou.html

c．愛と希望の小窓　http://www2.wbs.ne.jp/~rutu

(23)　希望に燃える新規就農者農林漁業現地情報タイトル

http://www.toukei.maff.go.jp/genti/1998_06/98_061_6.html

よく耳にする (22a) の「希望の星」という表現は,「光」としての「希

望」と，「高いもの」としての「希望」が合成されたと考えられる。(23) の「希望の鐘」は明らかに「高い」ところにあるものであり，「輝く」ものである。鐘が「高らかに鳴る」という音声的高さの連想も関与しているかもしれない。(22c) の「希望の小窓」に関しても「窓」が光を取り入れることから光のメタファーに関連しており，なおかつ，それが「小窓」であることは「高い」というイメージを伴っていることが予測できる。(23) では，一見，希望を「火」と捉えるメタファーが存在するように見える。この点に関しては，次の章で詳細に検討する。

(22) の例は希望は上であるというメタファーと希望は光であるというメタファーが合成された例と考えられる。メタファーの合成の概念は，Grady (1997)，鍋島 (2001a) で提唱されているので節を改めて述べる。

3.8.1 メタファーの合成

鍋島 (2001a) では，モラルメタファーに関して，4つのパターンが存在することを確認した上で，(24) のような表現が飛び抜けて多く使われることを指摘している。

①善は上である・悪は下である
②善はきれいなことである・悪は汚れたことである
③善は整っていることである・悪は崩れていることである
④善はまっすぐなことである・悪は曲がっていることである

(24) a．モラルの崩壊
　　 b．モラルの腐敗

鍋島 (2001a) では (24) のような表現が多く使われる理由をメタファーの合成に求めている。(24a) の「崩壊」という概念は，形が崩れることであると同時に高さが失われるということで，上記のモラルメタファーの①と③を含んでいる。また，(24b) の「腐敗」という概念は，汚れる，という意味と，形が失われるという意味で，上記のモラルメタファーの②と

③を含んでいる。2つのメタファーが共存しているため，(24) のメタファーはどちらもモラルの強力な表現となっているという主張である。

3.9　日本語における「希望」の概念化の分析

ここまでを簡単に表にまとめると表1のようになる。

番号	モト領域	例
1	線	希望をつなぐ
2	所有物	希望を持つ
3	生物	希望が生まれる
4	膨らむ	希望に胸を膨らませる
5	水	希望が湧く
6	上	希望を胸に羽ばたく
7	光	一筋の希望の光

表1 日本語における希望のメタファー

本節では，日本語において，「希望」がどのように比喩的に概念化されているかをインターネットなどの言語データから考察した。その結果，希望には，少なくとも7種類の概念化があることが特定された。すなわち，線，所有物，生物，膨らむもの，水，上，光である。次節では，本節のデータをもとに，もう一歩踏み込んだ分析を行う。すなわち，これまでに特定されているメタファーとの関連，「希望」を「火」と捉えるメタファーが存在するのかなどの点である。

4．日本語における「希望」メタファーの分析

本節では第3節で概観した日本語における「希望」メタファーに対してさらなる考察を加える。まず，4.1，4.2，4.3では本稿のメタファーと既に論じられているメタファーの関係を検討する。メタファー同士の関

係の1つに継承（inheritance）という概念がある。継承の一例は種と類，あるいは上位カテゴリーと下位カテゴリーという包含関係である。継承に関してはGoldberg（1995），メタファーの継承に関してはLakoff（1993）に詳しい。

4.1では，線状の概念化がイベント構造メタファーから継承を受けていることを見る。4.2では，上としての概念化がHappy Is Upというメタファーから継承を受けていることを示す。4.3では，希望が感情として感情のメタファーから継承を受けていることを確認する。4.4では火という概念化が存在せず，あくまで光の概念化のメトニミーであることを確認する。

4.1　望ましい場所への投射軌跡としての線

3.1節で，希望が線として概念化される例を見たが，鍋島（1997）にあるように「望み」，「期待」なども線として概念化される。

(25)　a．？望みに沿う
　　b．望み通り
　　c．望みをつなぐ
　　d．望みが断ち切れる
　　e．望みを絶つ

(26)　a．期待に沿う
　　b．期待通り
　　c．期待をつなぐ
　　d．期待が断ち切れる
　　e．期待を絶つ

線と移動が互換的に捉えられることは，Lakoff（1987）のOverの事例，Langacker（1987），Talmy（2000）の仮想的移動・主観的移動，Lakoff

and Turner（1989:140-1）に見られる William Carlos Williams の詩に出てくる線を移動物と捉える見立てなど，頻繁に見られる現象である。また，認知的に考えても，移動があれば痕跡が線と認知され，逆に線があればそれを観察するものの視線は線上を移動することになるなど関連性は強い。このため，線と移動の互換性は本稿では所与とする。

線と移動に関連するメタファーの先行研究としては，３つの例が考えられる。Ⅰ．時間のメタファー，Ⅱ．イベントのメタファー，Ⅲ．思考のメタファーである。いかにこの３点を例示する。

４．１．１　線・移動と時間のメタファー

Lakoff and Johnson（1980）では，時間に関して，次のような表現を挙げ，観察者が時間の中を移動するメタファーの存在を主張している。

(27)　a．As we go through the years,...
　　b．As we go further into the 1980s,...
　　c．We're approaching the end of the year.

（27）の写像は以下のようになる。（写像は Lakoff and Johnson, 1999 より：矢印の方向は逆）

Moving Observer Metaphor

Time	←	Locations On Observer's Path of Motion
The "Passage" Of Time	←	The Motion Of The Observer
The Amount Of Time "Passed"	←	The Distance Moved By The Observer

４．１．２　変化は移動　―イベント構造メタファー

Lakoff（1993）は人生は旅であるメタファーの詳細な分析から，出来事一般に適用できるメタファー群を特定した。（28）に述べるイベント構造メタファーである。

(28) イベント構造メタファー

-States are locations.（状態は場所である）

-Changes are movements.（変化は移動である）

-Causes are forces.（原因は力である）

-Actions are self-propelled movements.（行動は自律的な運動である）

-Purposes are destinations.（目的は終着点である）

-Means are paths.（手段は経路である）

-Difficulties are impediments to motion.（困難は移動の妨げである）

-Expected progress is a travel schedule.（予測された進捗は旅程である）

-External events are large, moving objects.

（外部的事象は巨大な移動物である）

イベント構造メタファーでは，状態が場所，状態変化が移動，望ましい状態が行きたい場所になる。たとえば，(29) のような例である。

(29) He finally reached his goal. (Kövecses, 2002)

4.1.3 思考は移動

Lakoff and Johnson（1999）では，Thinking Is Moving として，思考が移動として捉えられるメタファーを提唱している。例としては以下のようなものがある。

(30) a. Harry kept going off on flights of fancy.

b. We have arrived at the crucial point in the argument.

c. Where are you in the discussion?

d. I'm stuck! I can't go any farther along this line of reasoning.

e. Let's discuss step by step, not skipping any steps.

f. returning to the topic.

g. straying away from the topic.

h．approaching a topic.

Thinking Is Moving メタファーの主要な写像は（31）の通りである。

(31)　Thinking Is Moving Metaphor
- The Mind Is A Body.
- Thinking Is Moving.
- Ideas Are Location.
- A Line Of Thought Is A Path.

4.1.4　どのメタファーが正しいのか

さて，前小節までで，移動・線に関して次の3つのメタファーが存在することがわかった。

Ⅰ．時間のメタファー
Ⅱ．目的は終着点である
Ⅲ．思考は移動である

これら3通りの説明方法のうち，どれが正解なのであろうか。あるいは，これらは重なり合う部分が存在するのであろうか。また，どれが正しいかを判定する手法とはどのようなものであろうか。本小節では，希望は線である，というメタファーが，どのメタファーから継承を受けているか考察する。

まず，Ⅲ．思考は移動である，というメタファーからの継承とは思われない。その理由を以下に述べる。

第1に，思考を線と捉えるメタファーは日本語にも存在するが，データの分布が異なる。

希望は線である

(13)　a．希望に沿う

　　b．希望をつなぐ

　　c．希望が断ち切れる

　　d．希望を絶つ

　　e．希望通り

考えは移動である

(32)　a．意向に沿う

　　b．＊意向をつなぐ

　　c．＊意向が断ち切れる

　　d．＊意向を絶つ

　　e．意向通り

(33)　a．その考えに沿う

　　b．??その考えをつなぐ

　　c．(??) その考えが断ち切れる

　　d．(??) その考えを絶つ

　　e．その考え通り

(33c)，(33d) は，表現としては可能だとしても，推論が違う。すなわち，絶たれた思考は再開できるが，絶たれた希望は復活できない。

これに関連して，第2に，(34) に見るように「思考」の場合，「途切れる」という表現が使えるが，「希望」には使えない。

(34)　a．考えが途切れる

　　b．意識が途切れる

　　c．??希望が途切れる

　　d．??望みが途切れる

e．?? 期待が途切れる

最後に，(35) に見るように，希望の場合，着点表現に「明日／次回へ」などの時間に関連した表現が可能であるが，思考の場合は可能ではない。

(36)　a．希望を明日／次回へつなぐ
　　b．* 考えを明日／次回へつなぐ

以上の3点から，希望は線であるメタファーは，思考は移動であるメタファーと関連しないと考えられる。それでは，Ⅰ．時間のメタファー　Ⅱ．目的は終着点であるはどうであろうか。(36) に見たように，「希望をつなぐ」という表現には「明日／次回へ」という表現が着点として共起可能である。これを見ると時間メタファーにも思える。

一方，「つなぐ」とは「継続している」の意味であり，最終的な着点ではない。(37) のような表現に見る通り，最終的な着点は理想状態の実現であろう。

(37)　a．希望の実現に近づいている
　　b．希望の実現への道は遠い

定まった到達点を持つ点，(37) のように道としての概念化が可能な点の2点から希望は線であるメタファーは目的は到着点であるメタファーから継承を受けている，と考えたい。なお，時間のメタファーと目的は到着点であるメタファー自体の関連は別途検討が必要である。

4.2　上としての概念化

上としてのメタファーとして有名なものには，Future Is Up，Good Is Up，Happy Is Up がある（Lakoff and Johnson, 1980）。

(38) Future Is Up

a. All upcoming events are listed in the paper.

b. What's up this week?

c. I'm afraid of what's up ahead of us.

d. What's up?

(39) Good Is Up

a. Things are looking *up*.

b. We hit a peak last year, but it's been *downhill* ever since.

c. Things are at an all-time *low*.

d. He does *high*-quality work.

(40) Happy Is Up

a. I'm feeling up.

b. That boosted my spirits.

c. My spirits rose.

d. You're in high spirits.

e. Thinking about her always gives me a lift.

f. I'm feeling down.

g. I'm depressed.

h. He's really low these days.

i. I fell into a depression.

J. My spirits sank.

まとめると以下のようになる。

Ⅰ. 未来は上である

Ⅱ. よいことは上である

Ⅲ. 幸せは上である

それでは，希望は上であるメタファーはどのメタファーから継承を受けているのだろうか。まず，Ⅰ．の未来は上であるメタファーとは考えにくい。日本語では未来は上であるメタファーが観察されていないからである。新しいデータがない限り，もともと存在しないメタファーとの関連を議論することはできない。

よいことは上であると幸せは上であるの間には「幸せ」は「よいこと」であるという特殊と一般の関連があり，どちらがより「希望」に関連性が強いかは判別しにくいが，次の3点の理由から幸せは上であるメタファーからの継承であると主張したい。まず第1に，4.3に見るように「希望」を感情と見る例は多いため，「希望」が感情の一種である「幸せ」と関連することは自然に思われる。第2に「希望」は「幸せ」のメタファーともなる「光」メタファーの形で頻出する。第3に特殊なものと一般的なものと両方との関連性が見いだせる場合，特殊なものとの関連性を記述する方が妥当だからである。

4.3　感情の継承

生物，膨らむもの，水は，感情からの継承と考えられる。水に関しては鍋島（2000）に記述されている。

(41)　感情は水である[4]　（鍋島 2000）

a．勇気が溢れる／満ちる／湧く／ほとばしる

b．勇気を絞り出す

c．不満がこぼれる／漏れる／溜まる／渦巻く

d．不満を垂らす／まき散らす

e．感情に浸る／おぼれる／浸かる

f．感情がよどむ／澄む／濁る

g．愛情をかける

感情が生物であるというとらえ方も頻繁に生じる。

(42)　感情は生き物である

a．勇気／不満／やる気／愛が生まれる

b．勇気／やる気／愛が芽生える

c．やる気／愛を育む

d．やる気／愛／勇気を育てる

e．正義と勇気を育てる教育メールマガジン

http://www3.yomogi.or.jp/nakap/toiro/seigi.htm

また，感情を膨らむものとして捉えることも多い。

(43)　感情は膨らむものである

a．買ったぜiBook！期待膨らむ「箱からの取り出し」

http://www.zdnet.co.jp/macwire/9910/16/r_hako.html

b．岡山畜産便り96年2月号夢膨らむ「ひるぜんジャージーランド構想」　http://okayama.lin.go.jp/tosyo/9602/tks02.htm

c．「間口は広がり欲望は膨らむ」

http://www.ceres.dti.ne.jp/~ggm/note/maguchi.html

d．『コード・レッド』対策用パッチは不安で一杯

http://www.hotwired.co.jp/news/news/technology/story/20010806301.html

e．活力ラーメン元氣一杯　http://www.whistle-miyoshi.co.jp/genki

f．愛情一杯のお米です　http://www.nekonet.ne.jp/komekome

これらから，希望は水である，希望は膨らむものである，希望は生き物であるはそれぞれ感情は水である，感情は膨らむものである，感情は生き物であるから継承を受けていると考えられる。

4.4　希望は火であるか

前節の（23）などの表現から，希望は火であるというメタファーを立てたい欲求に駆られる。ここで（23）を採録する。

(23)　希望に燃える新規就農者農林漁業現地情報タイトル
http://www.toukei.maff.go.jp/genti/1998_06/98_061_6.html

しかし，本稿では，希望は火であるメタファーは存在せず，あくまで光のメトミニー的表現であることを主張する。その理由は以下の3点である。

まず，第1に，（44a）のような表現より，（44b）のような表現の方が一般的である点である。

(44)　a．?希望が燃える
　　b．希望に燃える

これは，燃えているのは，希望ではなく，人間の感情，気持ちであり，希望自体は火として概念化されていない可能性を示唆している。

第2に，これがより明確にわかるのは，副詞をつけた場合である。もし，希望が火として概念化されているとすれば，様々な燃え方が存在するはずであるが，（45）に見るように，燃え方の様態，特に聴覚的特性を表す擬音語の副詞をつけると表現の容認度がさらに下がる。これも，希望が火として概念化されていない可能性を示している。

(45)　a．?希望がめらめらと燃える
　　b．??希望がゴーゴーと燃える
　　c．??希望がぼうぼうと燃える
　　d．??希望がぱちぱちと燃える

第3に，希望の「ひ」，というとき，(46) や (47) のように，あかりを意味する「灯」という文字を当てる方が直感に合う。

(46)　a．?? 希望の火が消える
　　b．希望の灯が消える

(47)　a．?? 希望の火がつく
　　b．希望の灯がともる

これらの3つの理由から，希望の「ひ」というとき，これは明るい光を意味しているのであり，もし「火」を意味している場合がまれにあってもそれは光を発するもの，という意味で，メトニミー的に使われているのだと考えたい。

4.5　第4節のまとめ

第4節では，第3節の内容を受けて，希望の概念化にその他のメタファーがどのように関わっているかを検討した。4.1では，線の概念化がイベント構造メタファーの目的は終着点であるから継承を受けていることを見た。4.2では，上としての概念化が Happy Is Up というメタファーを継承していることを見た。4.3では，希望が感情のメタファーから継承を受けることを確認した。4.4では火という概念化が存在せず，あくまで光の概念化に関連することを確認した。これらを簡単にまとめると表2のようになる。

番号	モト領域	モト領域の上位領域
1	線	目的地
2	所有物	（感情？）
3	生物	感情
4	膨らむ	感情
5	液体	感情
6	上	幸せ
7	光	（良いこと？）

表2「希望」のメタファーと関連する既存のメタファー

第5節では，日本語の「希望」と対比して「望み」の概念を観察し，「望み」が「希望」とどのように異なるかを考察することにする。

5.「希望」と「望み」の相違―メタファー的視点による分析

本節では，「希望」を，非常に似通った概念である「望み」と比較し，比喩的分析を加えることにより，両者の違いを明らかにする。第1節で見たように，希望と望みは非常に似通っており，辞書記述を見ただけでは意味の相違が明らかではない。

きぼう（…バウ）【希望・冀望】

1　（―する）こいねがうこと。あることが実現することを待ち望むこと。また，その気持。のぞみ。願望。「希望を述べる」

2　将来への明るい見通し。のぞみ。可能性。見込み。

のぞみ【望】

（1　遠くを見やること。ながめ。眺望。）

2　そうしたい。そうありたいと願うことがら。希望。ねがい。「望みがかなう」

3　将来よくなりそうな見込み。将来の発展が期待されるようなみどころ。[5]

本節では，5.1 感情としての概念化，5.2 可能性としての概念化，5.3 上の概念化の 3 点における相違を検討して，両者を特徴付ける。

5.1　感情としての概念化があるか

第 4 節で希望には感情としての概念化があることを述べたが，この点，望みはどうであろうか。(47) に見るように，望みは「生き物」，「膨らむもの」がない。「水」としての概念化も，「湧いてくる」など特定の語に限られており，従って感情からの継承を受けていないといえる。

希望は生き物である

(48)	a．希望を生む	? 望みを生む
	b．希望を生み出す	? 望みを生み出す
	c．希望が芽生える	?? 望みが芽生える
	d．希望が芽吹く	?? 望みが芽吹く
	e．希望を育む	?? 望みを育む

希望は膨らむものである

(49)	a．希望が膨らむ	?? 望みが膨らむ
	b．希望に胸を膨らませる	? 望みに胸を膨らませる
	c．希望に満ちる	?? 望みに満ちる
	d．希望にあふれる	?? 望みにあふれる
	e．希望を込める	?? 望みを込める

希望は水である

(50)	a．希望に満ちる	? 望みに満ちる

b．希望にあふれる　　?? 望みにあふれる

c．希望が湧いてくる　　OK 望みが湧いてくる

5.2　可能性としての概念化があるか

一方，鍋島（2001b）で検討したように，「望み」には，可能性としての概念化が存在する。(52) は可能性に関する表現が濃淡で表される例である。

(51)　a．10％の望み（が残っている）

b．望み薄

(52)　a．うっすらとした可能性

b．疑いが濃い

c．敗色濃厚

d．ほのかな気配が感じられる

e．見込み薄

f．淡い期待がかかる

これに対して，希望に関しては (53) のような表現に違和感がある。概して，希望とは可能性の概念を含まないものとして理解することができる。

(53)　a．?? 10％の希望（が残っている）

b．*希望薄

5.3　「希望」と「望み」の上としての概念化の相違

両者には上としての概念化が存在するが，(54) に見るように，望みには希望に対応するような表現が見られない。

(54)　a．?/OK 望みを胸に羽ばたく
　　b．?? 飛び立つ望み
　　c．?? 舞い上がる望み

希望の上は主に，幸福に対応している。それに対して，望みに対応する上下は（54）のような例である。

(55)　a．高望み
　　b．一縷の望みをかける

（55a）では，上は良いことであると同時に達成しがたい，手の届かないものと概念化されている。（55b）では，いる状態自体が不安定な状態としている。いずれも望みの実現可能性に焦点がおかれている。以上の点から「希望」と「望み」はそれぞれ以下のように記述できる。

希望　　良い将来を考える幸せな気持ち
望み　　将来よいことが起こる可能性

5.4　第5節のまとめ

本節では，5.1 感情としての概念化，5.2 可能性としての概念化，5.3 上の概念化における相違を検討して，両者を特徴付けた。次節と次々節では，本稿の3つ目のテーマである日英比較を行う。

6．英語における *hope* の概念化

前節まで日本語における「希望」の概念化を考察した。本節では，英語に視点を移して，日本語の「希望」に対応すると思われる *hope* を取り上げ，この概念化を探る。3節に対応した形で，6.1 では線としての概念

化，6.2では所有物としての概念化，6.3では生物としての概念化，6.4では膨らむものとしての概念化，6.5では水としての概念化，6.6では上としての概念化，6.7では光としての概念化，6.8でその他を取り扱うこととする。なお資料はBritish National Corpus（BNC）から採用しており，文頭のアルファベットと数字の番号はBNC上の例文番号である。

6.1　線としての *hope*

英語の *hope* では線としての概念化は日本語の比べてかなり少なかったが，「一筋の希望」に当たるような（56）のような表現があることをネイティブスピーカーから指摘を受けた。

(56)　a <u>line</u> of *hope*

さらに，(57)，(58）のような表現は，長いものとしての概念化を思わせる。

(57)　HGF 998 As she arched her foot, her hand automatically flexed and <u>a strand</u> of *hope* flickered up her arm and across her back.（a strand：綱）

(58)　C85 2807 But she'd still let herself be fool enough to cling to the <u>wisp</u> of *hope* there might be someone of position who saw things different.（a wisp：一房，一筋）

線を思わせるものとしては，この他，後の6.7光の小節に見る ***a ray of hope, shreds of hope*** などの表現がある。

6.2　所有物としての *hope*

非常に通常の概念化として，***abondon, give, lose*** などが ***hope*** に使用で

きる。ここには（59）～（60）の三例を挙げたのみであるが，これらの表現は日常的であり，所有物としての概念化が存在すると考えることができる。

(59) FUT 390 But what I'm, what I'd like to stress to you is don't abandon *hope* erm sounds like a religious text actually.

(60) K4E 963 Baby Craig given *hope* of new life.

(61) FPB 2764 After a few days, having received no telephone call, letter, or message of any kind from Buzz, Elinor started to lose *hope*.

6.3 生物としての *hope*

日本語に比べると数は少ないが，*fresh*（新鮮な），*blossom*（花開く），*seed*（種），*abortive*（中絶の＝今にも消えそうな）など，動植物をモト領域とすると見られる *hope* メタファーは英語にも存在する。

(62) K52 1404 This will give everyone else who is still waiting fresh *hope*;

(63) HH1 5500 And in her heart she allowed *hope* to blossom into fragile life again.

(64) budding *hope*.

(65) A7G 69 It makes the tragedy even more complete, yet at the same time contains the seeds of *hope*.

(66) GSX 1670 In September he was one of those appointed to negotiate with the king of France and the papal legate in the abortive *hope* of

finding some political settlement.

以下の（67），および（68）の例では，等位接続で，*hope* と *life* および *hope* と *aspiration* がつながれており，等位接続は通常，統語的，意味的に近いものを連結するため，*hope* が生物的なものと非常に近いものとして捉えられていることの傍証となると考えられる。

(67) A7G 367 And friends like yourself who are willing to give a child somewhere the gift of life and *hope.*

(68) K1B 2033 What I hope comes out of this is the realisation that the *hopes* and aspirations of people here are the same as those of people at home in Britain.

6.4　膨らむものとしての *hope*

full, filled with, brimming with, pregnant with, swelled with, など，*hope* が膨らむものとして捉えられているケースは少なくない。

(69) ASC 51 Far from it: he had come out of the darkness and was full of *hope* and plans.

(70) K4W 1557 I set out for an appointment in Sunderland on the day of its launch, full of *hope* as York station's displays indicated the 11.34 InterCity to Newcastle was running ten minutes late.

(71) FSV 558 Sir: While fulling endorsing the sentiments expressed by Anne Waddington (12th March), I am concerned that she appears not to know that the word 'hopefully'; means 'filled with *hope*'.

(72) brimming with *hope*

(73) swelled with *hope*

(74) A95 297 It is a dangerous moment, pregnant with *hope* teetering on the edge of despair.

また，*bursting with hope* という表現は，破裂しそうなほど膨らんだ，に意味と考えることができる。

(75)，(76) の例では，*vain*（空しい），*devoid*（欠けている）を含んだ例を取り上げた。*vain* や *devoid* の同義語の一つは *empty* であり，空虚な中身のない状態として希望の喪失を捉えている。

(75) C98 610 Guided by a mournful bleating, he came across several groups of sheep, huddled together in the vain *hope* of safety.

(76) H8J 1794 The quiet click of the latch sounded like a death-knell in the silent room, and she sank down on the bed, her mind and heart devoid of *hope*.

6.5 水としての *hope*

希望を液体として捉える例は，膨らむの項であげた，*brimming with hope* がかろうじてそれに当たると考えられる程度で，あまり顕著ではない。例もほとんどなく (77) も十分なコンテクストがなく，水や液体としてのメタファーかどうか不明である。

(77) A08 867 Exuding *hope*? he said, as if he didn't understand English any more. exude（〈汗などが〉にじみ出る。）

6.6　上としての *hope*

日本語でもあまり顕著な例のない上としての概念化であるが，英語でも同様な状況である。ネイティブスピーカーのコメントによると（77）がある。

(78)　a．drifting with *hope*

　　b．uplifted with *hope*

6.7 光としての *hope*

光としての概念化は非常に多い。*light, bright, ray, glimmer, glowing* などの表現がある。

(79)　FRJ 163 The light of *hope* that had flickered in Tubby's eyes died and he shook his head wearily.

(80)　HH3 15413 Ten years after the end of Rhodesia, business magazines call Zimbabwe 'Independent Africa's brightest *hope*'.

(81)　JYA 4337 The pale old eyes were bright with *hope*.

(82)　BN4 958 Another ray of *hope* is the International Tropical Timber Organisation (ITTO) which was established in 1986.

(83)　HJD 1631 A spark of *hope* was rekindled in him, as his eye traced the faint line and saw it formed a two-foot square.

(84)　CDN 901 Glowing with *hope*, Hank had gone back to the garage and pruned and polished.

(85)　K22 2171 The result was all wrong... 6-2 on aggregate to Tranmere

but there was a flicker of *hope* in the flames as United's cup run went up in smoke.

(86) AKM 649 But Mr Coleman offered a glint of *hope* for Mr Bates, adding: 'This policy on ground-sharing was formed for very good reasons'. (glint ：閃光)

(87) K5H 3622 While France stands shoulder to shoulder with Germany, and the two countries together account for half the EC output, the exchange rate mechanism will survive, representing a beacon of *hope* for federalists who still see a common currency as the bridge across which Europe must pass to a federal future, and a baleful threat for the sovereign Britishers, who see it as a black hole which could draw EC members inexorably into the same destiny. (beacon ：かがり火，灯台，合図の火)

(88) K4T 698 'We must win this week-end to have a glimmer of *hope* of catching them'. (glimmer ：ちらちらする微光)

(89) EFT 773 The last two verses give a glimmer of *hope*.

(90)，(91) は色に関するものであるが，光と色の関連性からこのグループに入れた。

(90) ADL 1582 Extravagance grew as *hope* faded, and soon every offer or deal, in whatever currency, was fantastical.

(91) KD0 4463 It's the colour of *hope*.

6.8　その他

火の関連するメタファーは英語には多いように思われる。*fervent, lit, flame, flare, burn, alight* などが挙げられる。

(92)　K5J 3321 It is the fervent *hope* of most Celtic supporters that Rangers are eliminated from Europe, of course, so that their team retains the distinction of being the only one from Scotland ever to have won that trophy, albeit 26 years ago.

(93)　JYD 339 Her eyes lit with *hope.*

(94)　JY5 3684 The tiny darting flame of *hope* died instantly as the door swung open, but was replaced by a rush of real and genuine gladness as she looked into her father's face.

(95)　JYD 3727 'Can I take a message?' she said on a sudden flare of *hope.*

(96)　burning with *hope*

(97)　alight with *hope*（alight 灯火がともされていた）

6.9　第6節のまとめ

第6節では，日本語の「希望」に対応すると思われる英語の hope を取り上げ，このメタファーを概観した。6.1では線としての概念化，6.2では所有物としての概念化，6.3では生物としての概念化，6.4では膨らむものとしての概念化，6.5では水としての概念化，6.6では上としての概念化，6.7では光としての概念化，6.8でその他を取り扱った。英語のデータを踏まえ，次節では日英比較を行う。

7．日英メタファー比較

本節では，これまでの日本語と英語の「希望」のメタファーを踏まえ，日英語の比較を行う。まず，第3章と第6章を概観としてまとめた表を以下に示す。

番号	モト領域	日本語	英語
1	線	○	△
2	所有物	○	○
3	生物	○	○
4	膨らむ	○	○
5	水	△	×
6	上	△	△
7	光	◎	◎
8	火	×	○

表3「希望」のメタファーの日英比較

この表から何を読みとればよいだろうか。本節では，両言語の「希望」メタファーに関して，7.1両言語の類似点，7.2両言語の相違点，7.3相違点に対する説明の方向性，7.4文化的相違，7.5まとめの順で述べていく。

7.1　両言語の類似点

両言語で顕著なのは類似の多さである。両言語には光，所有物，生物，膨らむなど多くのメタファーが共有されている。光が人間や生物にとって生命の源であることは文化を問わず普遍的である。また，希望という心的現象が体に近いものとして所有物と概念化されることも不思議はないだろう。身体は容器，感情は容器の内容物という概念化もほぼ普遍的であると思われる。万人に共有されるこのような世界理解からメタファーの文化を

超えた類似性が生まれるものと考えられる。

7.2　両言語の相違点

一方，両言語に興味を引く相違点もあった。これらは線のメタファー，水のメタファー，火のメタファーである。

7.2.1　線のメタファー

線のメタファーが，目的は終着点であるというイベント構造メタファーと関連が深いとすると，このメタファーは普遍性を持つと考えられるため，希望を線と捉えるメタファーも当然英語に存在することが予測される。確かに，*a strand of hope, the wisp of hope, a ray of hope, shreds of hope* など，線状性を思わせる表現が全くないわけでもない。今後，詳細な検討が必要である。

7.2.2　水のメタファー

日本語で存在すると考えられた水のメタファーの例は英語ではまったくといっていいほど発見できなかった。日本語表現の方でも，希望を水と捉えている例は「希望に満ちる」「希望にあふれる」「希望が湧いてくる」の3例と，そう多いわけではなく，「満ちる」「溢れる」は膨らむもののメタファーの用例とも解釈できるので，日本語における希望は水であるメタファーを再検討する方向性もある。ただし，希望は水であるは，感情は水であるというメタファーと関連が深いと考えたので，新しい解釈を採用した場合，どうして感情に存在する水のメタファーが希望に存在しないかを説明しなければならなくなる。さらなる用例の採集も含め，検討が必要である。

7.2.3　火のメタファー

火のメタファーに関しては，日本語では3つの理由（「希望が燃える」ではなく，「希望に燃える」である点，「希望がぼうぼうと燃える」など様

態の副詞をつけると容認性がさらに大きく下がること，希望の「ひ」というとき，「火」ではなく，「灯」であること）で希望は火であるというメタファーは存在しないことを主張したが，英語では火の表現は *flame, flare* など，日本語より遙かに多いため，Hope Is Burning というメタファーの存在が推定される。一方，*flame* の訳として（98），*flare* の訳として（99）の要素も存在するため，輝きのメトニミーとしてこれらが使われている可能性もまだ否定できない。今後，詳細なチェックが必要である。

(98)　2　きらきらする輝き，輝く光,燃えるような色，炎［だいだい］色；紅潮 the ～ of the setting sun 燃えるような夕映えの色。[6]

(99)　1　〈炎が〉ゆらゆらと燃える《*out, away*》；ぱっと燃え上がる《*out, up*》；〈太陽が〉ぎらぎら輝く，照りつける《*down*》。[7]

7.3　相違点に対する説明の方向性

7.2 に見られた相違点を踏まえて，日英語の「希望」に関するメタファーをどのように説明することを考えたらよいのか。単純なことであるが，基本的に 2 つの大きな方向性があると思われる。それは普遍性と文化相対性である。

普遍性の方向でまとめていくとすれば，「線」のメタファー，「水」のメタファーが英語で存在し，「火」のメタファーが日本語で存在する証拠を求めていく，あるいは，「線」のメタファー，「水」のメタファーが日本語で存在せず，「火」のメタファーが英語で存在しない証拠を求めていくことになる。

一方，文化相対性の方向でまとめていくとすれば，相違点を明示し，その証拠を十分示すとともに，その理由に対する考察を深める必要がある。理由として考えられるのは，大別して言語的な理由および文化的な理由となる。言語的な理由としては，それぞれの言語の意味・統語・語用的制約が相違を形成している可能性がある。それ以外の理由としては，文化固有

の特性が言語に影響を及ぼしている可能性がある。

普遍性，文化相対性のどちらの方向で考えるにしても，全面的にどちらかと決めてしまうことはできないように思われる。本稿の考察で見たように，所有，生物，膨らむ，光など，希望を表すメタファーに日本語と英語の共通性は多い。これはなんらかの普遍的原理が働いているからだと考えられる。一方，どうしても文化固有であることを示唆するようなデータも存在する。これを次小節で観察することとする。

7.4　文化的相対性を示唆するデータ

文化相対性を考慮する必要性を示唆するデータとし本小節では2点を挙げる。「希望を掘り出す」という表現，および，英語に頻出する「否定的希望」表現である。

7.4.1　「希望を掘り出す」

データを考察する中で（100）にぶつかった。

(100)　HH3 9222 In your desperate struggle to dig up *hope* for Africa in the 1990s (NI 208) you gave naive solutions.

（100）では「アフリカに対する希望を見いだそうとなんとか奮闘する中で」とでもいった意味であろう。日本語でも「希望を追い求める」，「希望を探す」など，希望は追い求めるものであるという概念化は存在する。しかし，「掘り出す」に表現される上下を含み，「希望が下にあるもの」という概念化には抵抗が大きい。（100）を見ても希望の概念化が日英で全く同一であるとは考えにくい。

7.4.2　英語の「否定的」希望表現

さらに，データを考察する中で，英語は日本語よりも遙かに否定的な希望表現が多いことが目についた。以下に，このような例を列挙する。

(101) FR5 694 I spent a good while asking for something written down so that I could see what I was and wasn't supposed to do, but that was a forlorn *hope*.

(102) CKR 1460 He was abroad from 11 1 5 to 1120, always with Eadmer as his constant companion, bitterly upholding, but with ever-diminishing *hope* of success, his claim to primatial authority over the archbishopric of York.

(103) JXU 2196 Nothing could get out —; or in, she registered with a flicker of *hope*.

(104) CDE 1682 On each of her periods at Hillmarden he had still clung to the faint *hope* that she was improving,

(105) ADL 1582 Extravagance grew as *hope* faded,

(106) H7P 275 And with him had gone Miss Gemma Dallam's brown Chinese satin and every shred of *hope* Cara had cherished for the future.

(107) C8Y 1053 you will have precious little *hope of* organising any other social activities that will give you a break from daily routine.

(108) ACG 1923 Yet it is the merest hint of *hope* in a story of otherwise unbroken tragedy.

(109) ABE 203 False *hope* was duly dashed.

(110)　EVX 1474 It may then be a momentary thought, a fleeting *hope*, the colouring of a feeling, the forming of an intention,

(111)　GWG 2406 'More the sort of bitterness that comes from ruined *hope* you know.'

(112)～(115) には，「馬鹿げた」，「とんでもない」，を表す表現を集めた。これらも否定的な希望表現に関連すると思われる。

(112)　JYD 3279 'You're mine!' he said thickly, and she held his gaze in a moment of wild *hope* that he could feel the same, then remembered the fight he had had to get her, and the prizes he was now about to collect.

(113)　B1N 1366 No, that would be a false contrivance and anyway I still had a mad *hope* of catching that five-thirty ferry to Stornoway.

(114)　HA3 587 Rincewind looked up, an expression of insane *hope* on his face.

(115)　FES 1211 The man who talks equality in this respect is not a Socialist; he is simply crazy and beyond *hope*".

(101)～(115) のような否定表現はもちろん日本語でも存在するが，英語の印象では用例の半数以上を占めている。このような傾向的相違も日英語間に存在し，この相違も文化的相対性の存在を認めるべき議論になると思われる。

7.5　7節のまとめ

本節では，英語と日本語のデータから日英語比較の取りうる方向性を検討した。7.1では両言語の類似点を，7.2では両言語の相違点を，7.3では相違点の説明に関する方向性として普遍性と文化相対性を，7.4では文化相対性の具体例を述べた。次節は結論として本稿の示唆するところを簡単にまとめたい。

8．結論

本稿は，Lakoff and Johnson（1980）以来，盛んになっているメタファー理論に基づいて，日本語と英語の「希望」を表すメタファー表現を取り上げ，①どのようなメタファーが存在するのか，②類義語である望みとの相違はなにか，③日本語と英語において「希望」の概念化に相違が存在するのか，の3点に焦点を当てて論じた。

まず，序論である第1節に続いて，第2節で認知言語学におけるメタファー理論を概説した。次に，第3節および第4節で，①の疑問を取り扱った。第3節では，日本語の「希望」に関するメタファーを見た。第4節では，第3節で見たデータを中心に日本語の「希望」メタファーに関する分析を行った。第5節では，②の疑問点，「希望」と「望み」のメタファーの相違から両者の意味的な違いを検討した。第6節および第7節では，③の疑問点を取り扱った。第6節では，希望に対応すると思われる *hope* の用例を検討した。第7節では，日本語と英語における「希望」の概念化の相違を論じた。

以下に，本稿の発見と主張，残された課題，および今後の展望の順で述べる。

8.1　本稿の発見と主張

本稿では，日本語における「希望」のメタファーを観察した。希望のメ

タファーのモト領域としては，少なくとも，線，所有物，生き物，膨らむこと，水，上，光があることを，インターネット，作例などから幅広い言語データを使用して特定した。

さらに，類似語と見られる「希望」と「望み」の相違点に関しても検討した。「希望」は「良い将来に対して持つ現在の幸せな感情」であり，「望み」とは「将来良いことが実現する可能性」であることを主張した。辞書の記述を見てもほとんど区別がつかない二つの概念が，メタファーで分析するとはっきりと対照的になることがわかった。

最後に英語の *hope* に関するメタファーを主に British National Corpus (BNC) を利用して採集するとともに日本語の「希望」のメタファーと対照した。その結果，日本語と英語で大枠同様のメタファーが見られることを主張した。

8.2　残された課題

残された課題は主に2点ある。複数のメタファーから関連するメタファーを選択する問題，そして文化相対性の問題である。

8.2.1　複数のメタファーからの選択

第4節の分析で，線および上のメタファーに関して，すでに知られているメタファーからの継承を論じた。この際，いくつかの点が解決されていない。第1は，時間のメタファーとイベント構造メタファーの関係である。ここは現在である，目の前は未来であるという時間のメタファーと，目的は終着点であるというメタファーから継承を受けているように思われるが，これまでの文献では十分な考察がなされていない。第2に同様の問題が良いことは上であると幸せは上であるのメタファーに関してもいえる。両者は明らかに一般と特殊の包含関係にあり，継承関係にあると思われるが，継承関係にあるメタファーの関係性の説明は過去の研究で十分ではなかったし，本稿でも充分に取り扱えなかった。このようなメタファー間の関係を扱うツールを準備しないと，本稿で行った線および上のメタファー

とすでに知られているメタファーの関係を検討する際にも明確な議論は期待できない。

8.2.2　文化相対性

第7節では，日英語の「希望」メタファーを踏まえて，文化相対性について論じたが，メタファーが普遍的なのか文化相対的なのかは方向性を示唆するにとどまった。さらに，メタファーが文化相対的であるとなったとき，その理由に関してどのような説明を行うのか，あるいはどのような論証法が存在するのか。他の言語システムから説明ができるのか，もっと幅広い文化の問題に触れることを余儀なくされるのか。これらは実証的な問題として今後も継続して検討される必要があろう。

8.3　今後の展望

本研究を踏まえて，今後の展開としてはいくつかの方向性が考えられる。まず，第1に特に英語に関して，インタビューなど他の手法を用いて*hope*という概念の日本語の「希望」との相違を明確化する研究が望まれる。コーパスの言語データだけでは，ある言語のある概念がどのように構成されているか十分な理解を得ることが難しいからである。

第2に，類型論的研究の方向性がある。本稿では，日英語を比較して，「希望」の概念のメタファーの手法を使用して論じたが，他の言語ではどうなのか。アジアの他言語，アフリカの他言語なども含めて，十分な数の言語を比較すれば，普遍性と文化相対性に関するより詳細な理解が得られるものと考えられる。

最後に，他の概念のメタファー的把握を検討することによって今回の研究の位置づけと文化相対性の問題も明確になる。「問題」，「使役」，「関係」，「範疇と例示」などがどのように日英語で概念化されているかを検討することで，普遍性と文化相対性にはどのような機構が働いているか理解を深めることができる。

主要参考文献

Goldberg, Adele. *Constructions.* Chicago and London: The University of Chicago Press.

Grady, Joe. 1997. THEORIES ARE BUILDINGS revisited. *Cognitive Linguistics* 8(4), 267-290.

——. 1999. A typology of motivation for conceptual metaphor: correlation vs. resemblance. In Gibbs, R. and G. Steen, eds, *Metaphor in cognitive linguistics.* Philadelphia: John Benjamins.

Grady, Joe, Sarah Taub, and Pamela Morgan. 1996. Primitive and compound metaphors. In Goldberg ed. *Conceptual structure, discourse and language.* Stanford: CSLI publications.

池上嘉彦　1981.『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

景山太郎　1996.『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版

荒川洋平　1999.「パーソナル・コンピュータの名称における隠喩の分析」『獨協大学諸学研究』第 2 巻第 2 号

河上誓作編著　1996.『認知言語学の基礎』研究社出版

河上誓作・谷口一美．近刊．『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』（英語学モノグラフシリーズ第 20 巻）研究社出版

Kövecses, Zoltan. 2002. *Metaphor: A practical introduction.* Oxford: Oxford University Press.

楠見　孝　1990.「比喩理解の構造」芳賀　純・子安増生（編）『メタファーの心理学』誠信書房

Lakoff, George. 1987. *Women, fire, and dangerous things.* Chicago: The University of Chicago Press.（池上嘉彦，河上誓作他訳『認知意味論—言語から見た人間の心』，紀伊国屋書店，1993 年

——. 1990. The Invariance hypothesis: Is abstract reason based on image schemas? *Cognitive Linguistics* 1, 39-74.（杉本孝司訳「不変性仮説—抽象推論はイメージ・スキーマに基づくか？」坂原茂編『認知言語学の発展』，ひつじ書房，2000 年）

——. 1993. The contemporary theory of metaphor. In Ortony, A ed. *Metaphor and thought.* Cambridge: Cambridge University Press.

——. 1996. *Moral politics. –What conservatives know and liberals don't.* Chicago: The University of Chicago Press.（小林良彰・鍋島弘治朗訳　1998.『比喩によるモラルと政治』木鐸社）

Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors we live by.* Chicago: The

University of Chicago Press.

——. 1999. *Philosophy in the flesh.* New York: Basic Books

Lakoff, George and Mark Turner. 1989. *More than cool reason: a field guide to poetic metaphor.* Chicago: The University of Chicago Press.（大堀俊夫訳『詩と認知』，紀伊国屋書店，1994 年）

Langacker, Ronald 1987. *Foundations of cognitive grammar. Vol. 1: Theoretical prerequisites.* Stanford, Calif.: Stanford University Press.

松本　曜　2000.「日本語における身体部位詞から物体部分詞への比喩的拡張—その性質と制約」坂原茂編『認知言語学の発展』，pp.317-346，ひつじ書房

籾山洋介　1997.「慣用句の体系的分類—隠喩・換喩・提喩に基づく慣用的意味の成立を中心に—『名古屋大学国語国文学』第 80 号

森　雄一　2002.「隠喩は二重の提喩か？」『成蹊大学文学部紀要』第 37 号

鍋島弘治朗　1997.「動詞『かける』の多義に関する認知的考察—比喩が意味拡張に果たす役割—」『Proceedings of the 21 Annual Meeting』関西言語学会

——. 2000.「水の比喩（メタファー）—日本語の比喩研究における方法論に関する一考察—」日本言語学会 120 回大会口頭発表

——. 2001a.「『悪に手を染める』—比喩的に価値領域を形成する諸概念」『大阪大学言語文化学 10』

——. 2001b.「『可能性』はなぜ『薄い』のか—比喩の合成と衝突が生産性を抑圧する場合」『Proceedings of the 25 Annual Meeting』関西言語学会

——. 2002a.「Generic is Specific はメタファーか—慣用句の理解モデルによる検証—」『Proceedings of the 2nd JCLA Annual Meeting』認知言語学会

——. 2002b.「Causation（使役／因果）の概念化—認知メタファー理論の視点から—」『文学論集』第 52 巻　第 2 号　関西大学文学会

——.（予定）.「領域を結ぶのは何か—メタファー理論における価値的類似性と構造的類似性—」『Proceedings of the 3nd JCLA Annual Meeting』認知言語学会

西村義樹　2000.「対照研究への認知言語学的アプローチ」坂原茂編『認知言語学の発展』，pp.145-166，ひつじ書房

野村益寛　2002.「〈液体〉としての言葉：日本語におけるコミュニケーションのメタファー化をめぐって」大堀壽夫編『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京大学出版会

大堀壽夫　2002.「カテゴリー化研究の展望」大堀壽夫編『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京大学出版会

佐藤信夫　1978.『レトリック感覚』講談社学術文庫

瀬戸賢一　1995.『空間のレトリック』海鳴社

Shindo, Mika. 1998. "An analysis of metaphorically extended concepts based on bodily experience: A case study of temperature expressions (1)." *Papers in Linguistic*

Science (Kyoto University), No.4, pp.29-54.
篠原俊吾　2002.「『悲しさ』『さびしさ』はどこにあるのか―形容詞の事態把握とその中核をめぐって」西村義樹編『認知言語学Ⅰ：事象構造』東京大学出版会
菅井三実　2000.「格助詞『に』の意味的特性に関する覚書」『兵庫教育大学研究紀要』20(2):13-24.
杉本孝司　1998.『意味論〈2〉認知意味論』くろしお出版
Talmy, Leonard. 2000. *Cognitive Semantics, Volume I: Concept Structuring Systems.* Cambridge, Mass.: MIT Press.
辻　大介　1995.「隠喩解釈の認知過程とコミュニケーション」『東京大学社会情報研究所紀要』No.50.
辻　幸夫　2002.「メタファーの基本用語」『言語』（特集：メタファー）31(8):24-25.
山梨正明　1988.『比喩と理解』東京大学出版会
――. 2000.『認知言語学原理』くろしお出版
吉村公宏　1995.『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』人文書院

注

1　Kokugo Dai Jiten Dictionary. Shinsou-ban (Revised edition) Shogakukan 1988／国語大辞典（新装版）小学館　1988

2　メタファーの表記は従来 THEORIES ARE BUILDINGS とすべて大文字が使われることが多かったが，Lakoff and Johnson（1999）では単語の頭のみを大文字としている。本稿では後者を使用する。

3　Kokugo Dai Jiten Dictionary. Shinsou-ban (Revised edition) Shogakukan 1988／国語大辞典（新装版）小学館　1988

4　感情が水なのか液体なのか流体なのかも重要な問題であるが，本稿では取り扱わないものとする。

5　Kokugo Dai Jiten Dictionary. Shinsou-ban (Revised edition) Shogakukan 1988／国語大辞典（新装版）小学館　1988

6　Progressive English-Japanese Dictionary, Third edition Shogakukan 1980, 1987, 1998／プログレッシブ英和中辞典　第3版　小学館　1980，1987，1998

7　Progressive English-Japanese Dictionary, Third edition Shogakukan 1980, 1987, 1998／プログレッシブ英和中辞典　第3版　小学館　1980，1987，1998